



バイオコミュニティ関西 (BiocK)

～「集積」から「連携」へ～

2024年7月

事務局 NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議
公益財団法人都市活力研究所



内閣府バイオエコノミー戦略の概要

- バイオテクノロジーやバイオマスを活用するバイオエコノミーは、環境・食料・健康等の諸課題の解決、サーキュラーエコノミーと持続可能な経済成長の実現を可能にするものとして、投資やルール形成等、グローバルな政策・市場競争が加速。
- 我が国においても、GXやサーキュラーエコノミー、経済安全保障、食料安全保障、創薬力強化等の議論が進展する中で、バイオものづくりをはじめとした総額1兆円規模の大型予算が措置されるなどバイオエコノミーに対する期待が高まっている。
- **バイオエコノミー戦略※**に基づく取組を推進し、**我が国の強みを活用してバイオエコノミー市場を拡大し、諸課題の解決と持続可能な経済成長の両立につなげていく。**（※バイオ戦略（2019年策定、最終更新2021.6）を改定し、名称も変更）

バイオエコノミー市場拡大を目指した取組の推進 2030年に国内外で100兆円規模

	バイオものづくり・バイオ由来製品	一次生産等（農林水産業）	バイオ医薬品・再生医療等、ヘルスケア
目指す姿	各産業のバイオプロセス転換の推進、未利用資源の活用による環境負荷低減やサプライチェーンの強靱性向上	持続可能な食料供給産業の活性化、木材活用大型建築の普及によるCO ₂ 排出削減・花粉症対策への貢献	日本発のバイオ医薬品等のグローバル展開、医療とヘルスケア産業が連携した健康寿命延伸
技術開発	・バイオテクノロジーとAI等デジタルの融合による微生物・細胞設計プラットフォームの育成とバイオファウンドリ基盤の整備 ・強みとなりうる水素酸化細菌、培養・発酵プロセス等に注力 ・原料制約の解消に向けた未利用バイオマスやCO₂直接利用、生産・収集コストの低減、前処理技術 等	・スマート農業に適合した品種の開発・栽培体系の転換、農業者を支援する生成AIの開発等、ゲノム情報を活用した新品種の開発等生産力向上と持続性を両立する研究開発等 ・建築用木材(CLT等)や林業機械の技術開発・実証、ゲノム編集による無花粉スギの開発等	・次世代の医療技術や創薬につながる革新的シーズ創出のための基礎研究と橋渡し機能の強化 ・革新的医薬品・医療機器等の開発を進めるための薬価制度等におけるイノベーションの適切な評価を検討
市場環境	・バイオ由来製品の市場化に向け、まずは高付加価値品の市場化に注力。低コスト化・量産等に向けた規制や市場のあり方の検討、段階的に汎用品の市場化。官民投資規模を3兆円/年に拡大 ・LCA等の評価や製品表示、国際標準化等のルール形成、グリーン購入法等を参考にした需要喚起策の検討	・みどりの食料システム戦略に基づく環境負荷低減に向けた取組等の推進 ・フードテック等先端技術に対する国民理解の促進等。先進技術の海外市場への展開、国際標準等 ・木材利用の意義や効果の普及啓発	・ヘルスケアサービスの信頼性確保のため、医学界・産業界が連携したオーソライズの仕組みの構築を支援 ・安全保障上の観点も含め、CDMO等製造拠点の国内整備及び現場での製造人材の確保
事業環境	・バイオファウンドリ拠点の整備 ・バリューチェーンで求められる人材の育成・確保、周辺産業も含めたサプライチェーンの構築 ・省庁連携による規制・ルールの調整、国際議論への対応、バイオマス活用推進基本計画に基づいたバイオマスの活用推進	・農研機構等において産学官が共同で活用できるインフラの充実・強化。品種の海外流出防止に向けた育成者権管理機関の取組の推進 ・大規模技術実証事業等による農林水産・食品分野のスタートアップの育成 ・木材活用大型建築の設計者・施工者の育成	・日本と諸外国のエコシステムの接続の強化による創薬ベンチャー支援 ・ヘルスケア産業市場の特異性を踏まえたスタートアップ支援

基盤的施策

- ・若手研究者について研究に専念できる環境整備、競争的研究費の充実
- ・バイオとデジタルの融合、研究のDXを一層加速するためのデータベースの整備やAIを用いた統合検索技術等の開発、バイオインフォマティクス人材の育成
- ・分野ごとや分野横断的なデータの連携・利活用を支える基盤の整備
- ・生命の発生・再生から老化までの「ライフコース」に着目した研究等の基礎研究の推進。AIや量子などの異分野の知見の活用の推進
- ・バイオリソースの収集・維持・提供の確実な実施と、中核拠点の充実
- ・人材・投資を呼び込み、市場に製品・サービスの供給に向けたバイオコミュニティ、スタートアップエコシステム拠点都市等の産学官金が連携した取組の推進

バイオエコノミー戦略の全体構造

- 環境・食料・健康等の諸課題の解決
- サーキュラーエコノミーと持続可能な経済成長の実現



バイオエコノミー市場の拡大を通じて貢献

バイオエコノミー市場の拡大（バイオテクノロジーやバイオマスを活用）2030年に向けた科学技術・イノベーション政策の方向

2030年に国内外で100兆円規模の市場規模を目指す

① バイオものづくり・バイオ由来製品

② 持続的一次生産システム
③ 木材活用大型建築・スマート林業

④ バイオ医薬品・再生医療・細胞治療・遺伝子治療関連産業
⑤ 生活習慣改善ヘルスケア、デジタルヘルス

ターゲット市場ごとに2030年に目指す姿を定め、バックキャストで技術開発、市場環境、事業環境の整備等の取組

バイオエコノミーの基盤となる基礎生命科学等の研究力の強化、バイオコミュニティの活動の推進等の基盤的な取組

市場領域の見直し

バイオ戦略 (フォローアップ2021.6)

①高機能バイオ素材
(軽量性、耐久性、安全性)

②バイオプラスチック (汎用プラスチック代替)

③持続的一次生産システム

④有機廃棄物・有機排水処理

⑤生活習慣改善ヘルスケア、機能性食品、
デジタルヘルス

⑥バイオ医薬品・再生医療・細胞治療・
遺伝子治療関連産業

⑦バイオ生産システム (工業・食料生産関連
(生物機能を利用した生産))

⑧バイオ関連分析・測定・実験システム

⑨木材活用大型建築・スマート林業

統合・拡大

バイオエコノミー戦略 (2024.6)

①バイオものづくり・バイオ由来製品

・技術的な進展によってバイオで生産できるモノが拡大していること等を踏まえ、これまでの素材・プラスチックに止まらない幅広い市場に拡大。
・バイオものづくり革命推進事業、GI基金、GteX等の大型予算を活用した取組方針を追加。

②持続的一次生産システム

・スマート農業、みどりの食料システム戦略に加え、産業界の関心が高いフードテックを追加。

③木材活用大型建築・スマート林業

・スギ花粉の発生源対策の観点からの取組方針を追加。

④バイオ医薬品・再生医療・細胞治療・ 遺伝子治療関連産業

・次世代医療につなげる革新的な研究開発・融合研究・製造拠点整備の推進や、創薬ベンチャー育成の取組を追加。

⑤生活習慣改善ヘルスケア、デジタルヘルス

・ヘルスケア領域への参入を促す基盤となるデータ連携の推進、国内スタートアップ支援等を追加。



関西の地域特性、強みと課題

関西の強みと課題

バイオ関連産業の集積

- ✓ 歴史的に、医薬品、医療機器、醗酵などのバイオ産業が集積している
- ✓ 東部大阪を中心に、高度な技術を持つものづくり中小企業が集積している
- ✓ バイオ関連のCMO（受託製造）やCDMO（受託開発製造）事業が近年積極的に拡大されている

研究拠点と知の集積

- ✓ 高度な研究機関や質の高い研究者が集積している
- ✓ 再生医療や免疫の分野で質の高い研究開発活動を推進している
- ✓ スーパーコンピュータ「富岳」など、先端分野の研究開発をリードしている
- ✓ 研究開発型の民間企業が多く存在する
- ✓ 幅広い分野の多様なクラスターが発達しておりコンパクトに集積している
- ✓ 海外との共同研究や研究交流が活発に行われている

地域の魅力

- ✓ 大阪・京都・神戸は魅力的な都市として国際的な認知度が高い
- ✓ 関西国際空港は関西の玄関口であり、海外、特にアジアとのつながりが強い
- ✓ オフィス賃料や工業団地借料なども比較的安価であり優れたコスト競争力を有する

将来への期待

- ✓ 研究開発型産業振興のための大型プロジェクトが多く推進されている
- ✓ スタートアップ企業輩出の素地があり期待されている
- ✓ 大阪・関西万博2025が予定されており、未来志向が醸成されつつある

課題

- ✓ ベンチャー化のマインド、CXO人材、資金の不足
- ✓ スタートアップの認知度が低い
- ✓ 関西としてのまとまりがない

集積から連携へ



バイオ関連産業の集積

研究拠点と知の集積

地域の魅力

京都大学
京都大学iPS細胞研究所(CiRA)
京都大学iPS細胞研究財団 (CiRA_F)
理化学研究所(けいはんな)
地球環境産業技術研究機構 (RITE)
京都リサーチパーク(KRP)

大阪大学
大阪公立大学
医薬基盤・健康・栄養研究所
国立循環器病研究センター
産業技術総合研究所(関西センター)
理化学研究所(吹田)
彩都、健都、中之島
関西医薬品協会、道修町
近畿バイオインダストリー振興会議
都市活力研究所、LINK-J WEST

神戸大学
理化学研究所(神戸)
神戸医療産業都市(KBIC)/スーパーコンピュータ「富岳」
先端バイオ工学推進機構(OEB)
次世代バイオ医薬品製造技術研究組合(MAB)
バイオロジクス研究・トレーニングセンター(BCRET)
播磨科学公園都市/大型放射光施設「SPring-8」

集積

支援

連携

連携・連鎖の加速

幅広い市場領域において
バイオエコノミー社会を実現

BiocKの取組みにより
連携・連鎖をさらに加速させる

KSAC*、KSII**などの取組みにより
大学や研究機関の連携が進みつつある

* 京阪神スタートアップアカデミア・コアリション/文科省
** 関西イノベーションイニシアティブ/経産省

大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム*の
取組みによりスタートアップ支援が始まっている

* スタートアップ・エコシステム拠点都市/内閣府



バイオコミュニティ関西について

バイオコミュニティ関西について

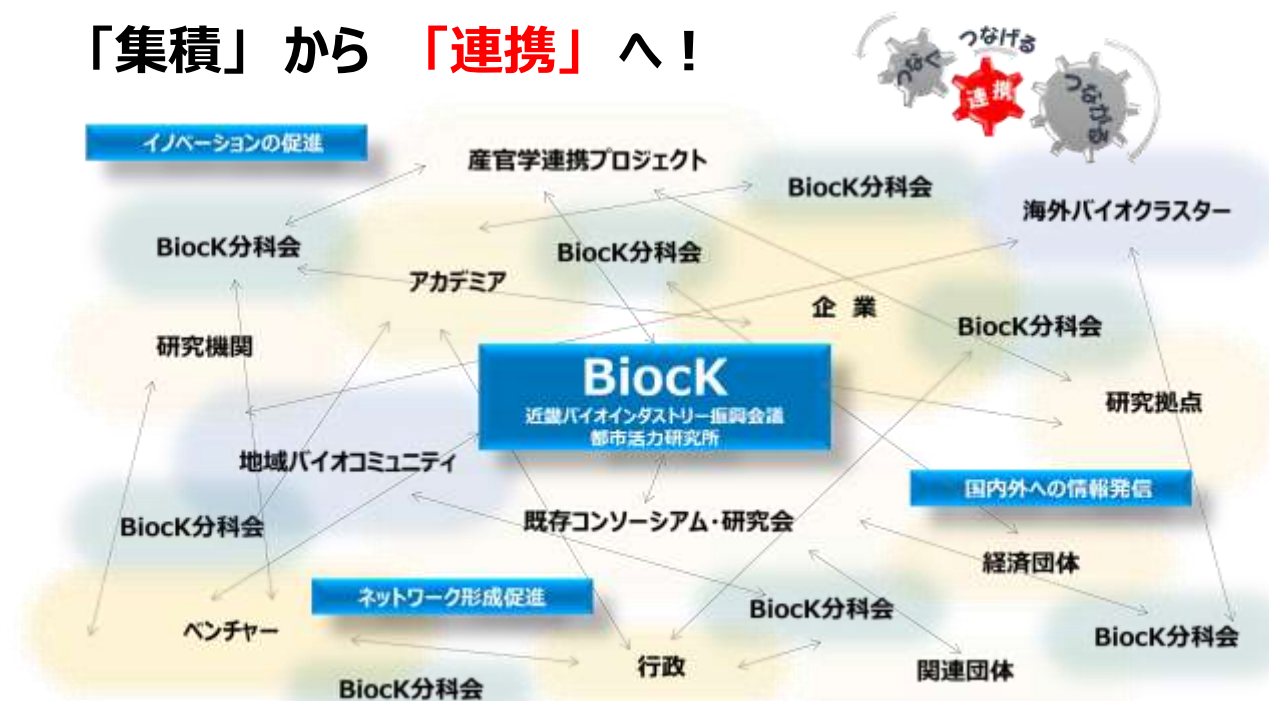


ビジョン	持続可能な社会実現のため、バイオファーストの発想を広げ、グローバルバイオコミュニティの形成をめざす
ゴール	関西を拠点にバイオ分野における究極のエコシステムをつくる
キーワード	「集積」から「連携」へ つなぐ、つなげる、つながる

「連携」が意味すること

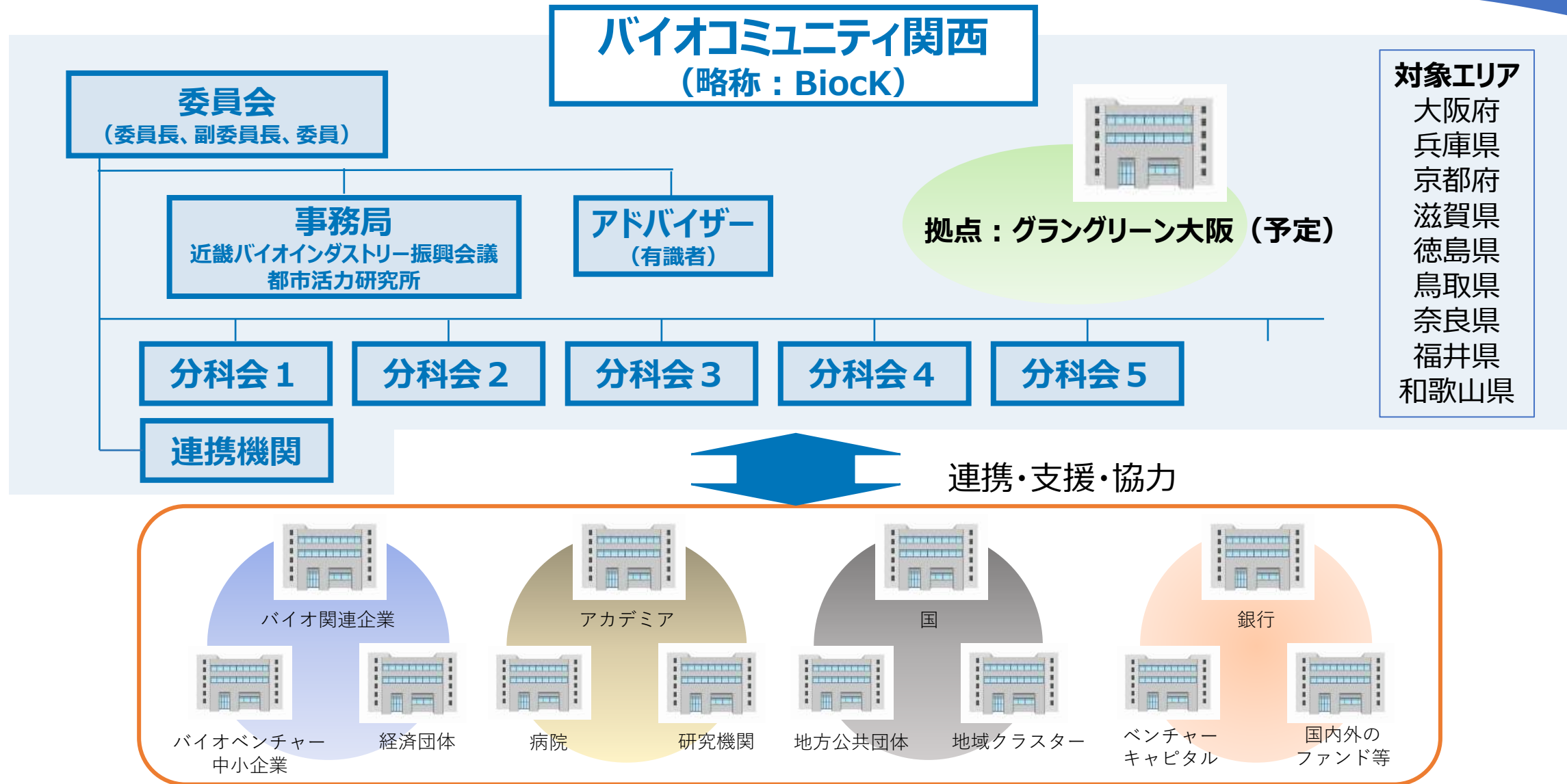
ネットワーク機関が中心となって、コミュニティ内の人と情報の交流を促進することにより、各機関がお互いの状況を深く理解し、適切な情報共有が進む状態をつくり出し、必要なパートナーと協力し、人・モノ・金・情報の好循環が進み、経済的な成長を達成するとともに、グローバルな存在感を増している状態

「集積」から「連携」へ！



名称	✓ バイオコミュニティ関西 ✓ Biocommunity Kansai ✓ 略称 BiocK (バイオック)
設立・認定	✓ 2021年7月1日設立 ✓ 2022年4月22日 内閣府よりグローバルバイオコミュニティに認定
アクションプラン	✓ イノベーションの促進 ✓ ネットワーク形成促進 ✓ 国内外への情報発信
コミュニティのあり方	✓ 「産業界」中心のコミュニティとする ✓ バイオ界全体の連携を強化する ✓ 新たなイノベーションにつなげる

バイオコミュニティ関西の組織



バイオコミュニティ関西 委員構成

2024年7月1日現在



役員	委員長	澤田 拓子	関西経済連合会ベンチャー・エコシステム委員会 委員長			
	副委員長	諸富 隆一	関西経済連合会ベンチャー・エコシステム委員会 副委員長 関西経済同友会関西ブリッジフォーラム委員会 委員長			
	副委員長 統括コーディネーター	坂田 恒昭	NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 理事長 大阪商工会議所ライフサイエンス振興委員会 副委員長 全国バイオコミュニティ連絡会 会長			
	事務局長	高田 清文	NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 専務理事			
	事務局次長	藤本 秀司	公益財団法人都市活力研究所 専務理事			
	委員		関西経済連合会 関西経済同友会 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立研究開発法人国立循環器病研究センター 国立研究開発法人産業技術総合研究所関西センター 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 国立研究開発法人理化学研究所 独立行政法人製品評価技術基盤機構 公益財団法人地球環境産業技術研究機構 株式会社国際電気通信基礎技術研究所 関西健康・医療創生会議 大阪商工会議所 京都商工会議所 神戸商工会議所 徳島大学 大阪公立大学 関西医薬品協会 日本貿易振興機構大阪本部 独立行政法人中小企業基盤整備機構近畿本部 一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン 一般財団法人バイオインダストリー協会 大阪大学 京都大学 神戸大学 滋賀県 徳島県 鳥取県 奈良県 福井県 和歌山県 堺市 大阪府 大阪市 兵庫県 神戸市 京都府 京都市 37団体			
事務局		NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議		公益財団法人都市活力研究所		

アクションプラン

(1) イノベーションの促進

社会課題解決のためのオープンイノベーションを推進する責任あるコンソーシアム(分科会)を組成し、1企業、1研究機関では 解決できないテーマを取り上げて挑戦する

- ① **企業発オープンイノベーションの促進**
 - ✓ 関西企業を中心にテーマを募集し、中核企業が経営層のコミットメントを得て責任あるリーダーとなる
 - ✓ リーダー企業が中心となって関西にとどまらず国内外の関連機関を巻き込んで分科会を組成し、運営する
- ② **産学官連携プロジェクトとの連携**
 - ✓ 国や地方自治体が推進している産学官連携プロジェクトと連携し、必要に応じて分科会に位置づける
 - ✓ 他の分科会との連携を図るなど、BiocKのネットワークを活用して全体としての成果の向上をめざす

全ての活動のベースとなる以下の課題については特に注力し、分科会を立ち上げて取り組む

カテゴリ	課 題	取組みの方向性
スタートアップ支援	ベンチャー化のマインド、人材、資金が不足 海外からの認知度が低い 特に開発後期を担うベンチャー数が極端に少ない	CXO人材の育成(事業計画策定、知財確保など) シリーズB以降の資金調達 大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム、KSAC、KSIIと協力 既存の枠組みにとられない資金提供の仕組の提案
人材確保	スタートアップの経営を担う CXO人材の不足 バイオ製造にかかわる人材の不足	人材交流によるCXO人材発掘プログラムの立ち上げ 起業家マインド育成のための高校生へのアプローチ バイオ製造人材育成プロジェクトとの連携
バイオフアウンドリ	バイオ製造技術の確立には、技術開発と先行投資が必要 バリューチェーンを構築できれば大きな強みとなる	バイオ製造技術、細胞製造技術に関するプロジェクト強化 CDMO、CMO、事業会社のバイオ製造拠点の利活用
データ連携と利活用	バイオ関連データの収集・統合・利用のルール作り 持続的に運用可能なシステムの構築	関西発のデータ連携システム構築 Society 5.0の実現

分科会構成

2024年7月1日現在



企業発オープンイノベーションの促進（15件）

分科会名称	社会課題分野	取組内容	リーダー機関	備考
バイオメタン分科会	環境・エネルギー	エネルギーのカーボンニュートラル化	大阪ガス株式会社	産官学から多くの研究機関が参画予定
プラスチック分科会	環境・エネルギー	バイオプラスチック	サライ株式会社	
メンタルヘルス分科会	ヘルスケア	社会生産性の向上	塩野義製薬株式会社	
パーソナルデータ分科会	ヘルスケア	パーソナルデータの利活用	西日本電信電話株式会社	
麹菌（国菌）ウェルビーイング分科会	生活習慣改善ヘルスケア	麹菌の健康効果、美容効果の解明	月桂冠株式会社	
ライフスタイルDX分科会	デジタルヘルスケア	デジタルを活用したライフスタイルのアップデート	サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社	
トイレ空間での新たな価値提案分科会	ヘルスケア	トイレを利用した健康な暮らしのサポート	TOTO株式会社	
スマートカルチャー分科会	持続的・一次生産システム	一次産業におけるバイオ機能の最大限活用	ヤンマーホールディングス株式会社	
木材・CLT利活用DX分科会	木材活用大型建築	Building Information Modeling(BIM)データ活用によるCLT再利用	株式会社竹中工務店	
KODOBOKU技術を活用した森林環境分科会	森林環境保全	豊かな生物多様性の森づくり	株式会社シーテック	
バイオファウンドリ・クラスター分科会	モノづくりバリューチェーン	バイオモノづくり	株式会社バックス・バイオイノベーション	
分析・計測分科会	バイオ分野全般	分析・計測によるバイオ産業の振興	株式会社島津製作所	
宇宙バイオ実験分科会	バイオ全般	人工衛星ペイロードを利用した日本発民間主導宇宙バイオ実験プラットフォームの構築	株式会社IDDK	
音でバイオの世界をかえる分科会	バイオ生産システム・ヘルスケア	バイオ生産、ヘルスケア領域への音の利用	オンキヨー株式会社	
スタートアップ分科会	スタートアップ支援	関西におけるスタートアップ支援	株式会社三井住友銀行	

新たな分科会の中核機能を担う「企業」・「産学官連携プロジェクト」募集中

分科会構成

2024年7月1日現在



産官学連携プロジェクトとの連携（14件）

分科会名称	社会課題分野	取組内容	リーダー機関	備考	産官学から多くの研究機関が参画予定
デジタルバイオヘルス分科会	ヘルスケア	総合健康産業都市	国立循環器病研究センター 研究所	JST共創の場	
フォトニクス生命工学分科会	ヘルスケア	フォトニクス生命工学	大阪大学	JST共創の場	
Vision to Connect分科会	ヘルスケア	眼科を中心としたデジタルヘルスビッグデータ による幸福なライフスタイルの社会実装	東北大学	JST共創の場	
モダリティー分科会	ヘルスケア	抗体・遺伝子治療製品・ワクチン製造	次世代バイオ医薬品製造技 術研究組合(MAB組合)	AMED・ NEDO	
メドテックイノベーション分科会	ヘルスケア	医療機器開発人材育成	大阪大学/テルモ株式会社		
細胞製造分科会	再生医療	細胞製造エコシステムの構築	大阪大学	AMED	
再生医療分科会	再生医療	再生医療エコシステムの構築とグローバル化	大阪大学		
健康関数®分科会	健康脆弱化の予知・予防・ 改善	個別健康の最大化により健康寿命を延伸 する	神戸大学、理化学研究所		
フードロス分科会	持続的・一次生産システム	革新的低フードロス共創拠点	大阪大学		
デジタルグリーン分科会	持続的・一次生産システム/ デジタルヘルス/バイオ生産	けいはんな学研都市と近郊農山村が相互 補完する持続可能社会の実現	奈良先端科学技術大学院 大学		
バイオマス分科会	カーボンニュートラル	バイオマス技術によるカーボンゼロエミッション の実現	東京農工大学	JST共創の場	
ホワイトバイオ分科会	ホワイトバイオ関連	バイオフィアウンドリ事業	大阪大学(代表世話人)	NEDO	
バイオ産業人材育成分科会	バイオ生産システム人材育 成	バイオものづくりの実務を担うバイオ産業人 材育成	大阪工業大学	NEDO	
未来型都市分科会	持続可能社会	未来型知的インフラモデル発信	大阪大学	JST共創の場	

新たな分科会の中核機能を担う「企業」・「産学官連携プロジェクト」募集中

第3回分科会会議

2023年8月31日（木）

分科会44名、オブザーバー8名、BiocK 11名

1. 開会挨拶（澤田委員長）
2. 新分科会活動紹介
3. データ利活用
（1）データ利活用に関する課題
（2）トークセッション
（モデレーター：澤田委員長）
4. スタートアップ支援活動
5. オープンイノベーション成功に向けたトークセッション
（モデレーター：坂田副委員長兼統括コーディネーター）
6. 閉会挨拶（諸富副委員長）



第4回分科会会議

2024年8月29日（木）（予定）

分科会間の連携促進

共通課題の議論
データ利活用
オープンイノベーション



分科会主催イベント

Medtech Innovation分科会

2024/02/26（月）

BiocK Medtech Innovation分科会 Kick-off
シンポジウム

分析・計測分科会

2024/03/19（火）

第8回 液体クロマトグラフ質量分析装置(LCMS)
講習会《講義》

宇宙バイオ実験分科会

2024/03/19（火）

BiocK 宇宙バイオ実験分科会 キックオフイベント・
成長産業育成コンソーシアム推進事業 ネットワーク
交流会「宇宙 x ライフサイエンス in 神戸」

フォトニクス生命工学分科会

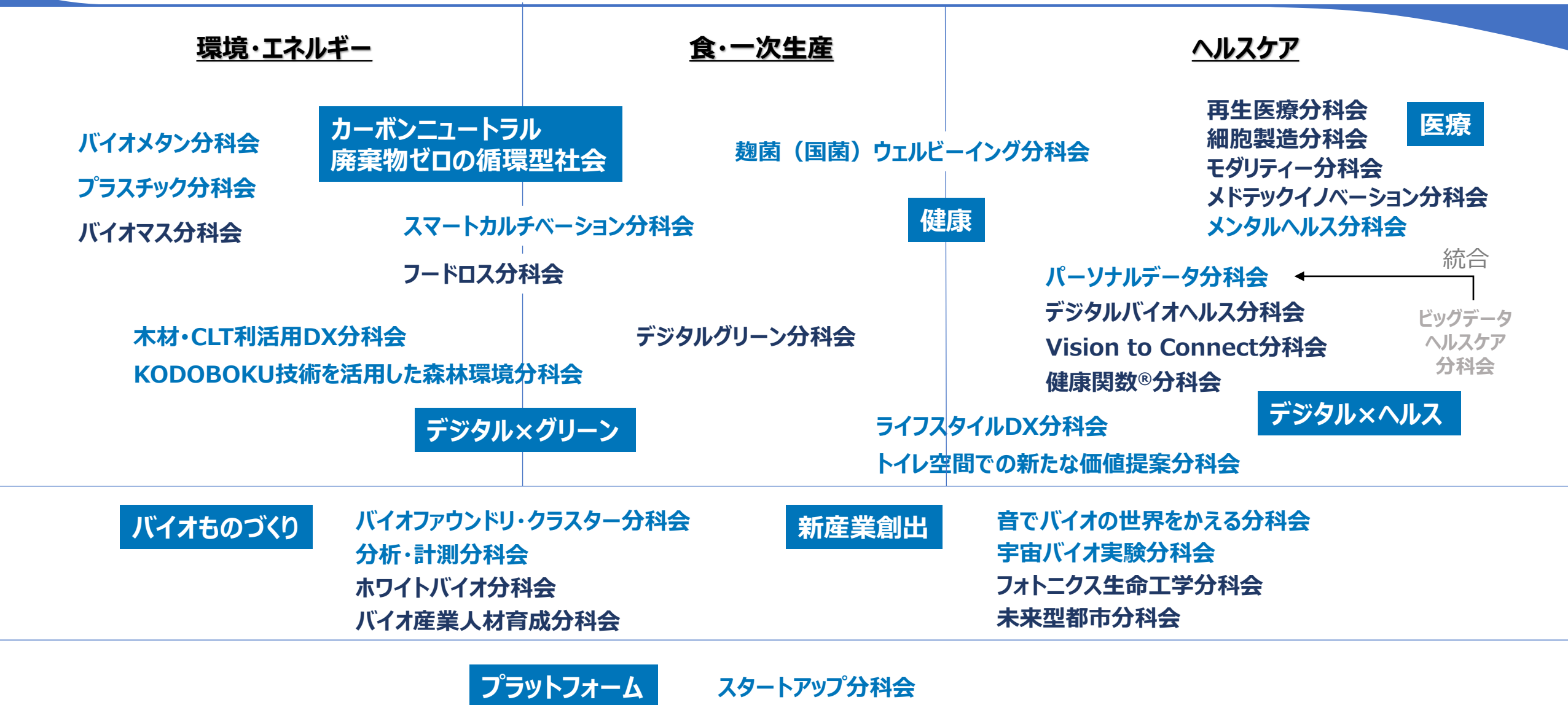
2024/06/12（水）

メドテック アントレプレナーシップシンポジウム ～アカ
デミアとビジネスが一体となるエコシステムの構築～

他

分科会マッピング

薄青：企業発オープンイノベーション分科会
濃青：産官学連携プロジェクトとの連携分科会



オープンイノベーションの成功に向けて

第3回分科会会議（2023.8.31）トークセッション
バイオ戦略トークセミナー（2023.8.1）の議論より



社会課題とテーマ	民間中心	取り組み方	人材
- 地球規模の社会課題をどうとらえるか - バイオでどう解決するか - 実用化が可能なテーマ設定	- 社会実装のためには民間の力が必要 - 企業トップのコミットが必須	- 市民や若手などを巻き込んだワークショップの開催も効果的 - 先進的な取り組みは、小規模でまずやってみる	- オープンイノベーション人材の発掘 - インタープレナー（社会起点で越境しながら働く人） - ビジネス展開は技術部門だけでは困難 - バイオ人材育成も必要
学との連携	オープンイノベーションのコア		スタートアップの役割
- アカデミアのシーズを企業またはベンチャーが実用化する - シーズの目利きが必要 - 社会課題解決のためにアカデミアが企業に協力するという考え方も重要	コンセプト	コミュニケーション	- イノベーション推進の主役 - アカデミアと企業の橋渡しにもなる - フラッグとなるベンチャーをつくる - 最終的なプロダクトを作る会社 - CXO人材育成 - アントレプレナー教育は座学＋実学で - スタートアップへの投資促進
	<u>何をするのか</u> - 真の社会課題への取り組み 1社ではできない課題 - イノベーションのデザイン	<u>周囲の力を利用する</u> - 専門家をまとめあげる - 人間力、情報力、表現力、現場力、直観力	
官との連携	さらなる連携	データ利活用	関西の特長
- 国費の獲得 - スマートシティ、資源循環、エネルギーなどの分野では自治体との連携が重要	- デジタル、AIの取り込み - 異なるステークホルダーとの掛け算 - 異業種間連携 - 海外連携	- ヘルスケア分野のデータ利活用は必須 - 農業や環境分野でもデータの利活用は重要	- 顔が見えるコミュニティがある - フランクな議論ができる - イノベーション創発に適している - 議論の場（サロン）の活性化が必要

アクションプラン (2) ネットワーク形成促進



国内連携

バイオエコシステムの形成に向けて、国内連携を加速中

◆第2回バイオコミュニティ連携会議

2023年11月27日（月）～28日（火）、福岡

参加メンバー：

- グローバル バイオコミュニティ関西 (BiocK)
Greater Tokyo Biocommunity (GTB)
- ローカル 北海道プライムバイオコミュニティ
鶴岡バイオコミュニティ
長岡バイオコミュニティ
福岡バイオコミュニティ
ひろしまバイオDXコミュニティ
沖縄バイオコミュニティ

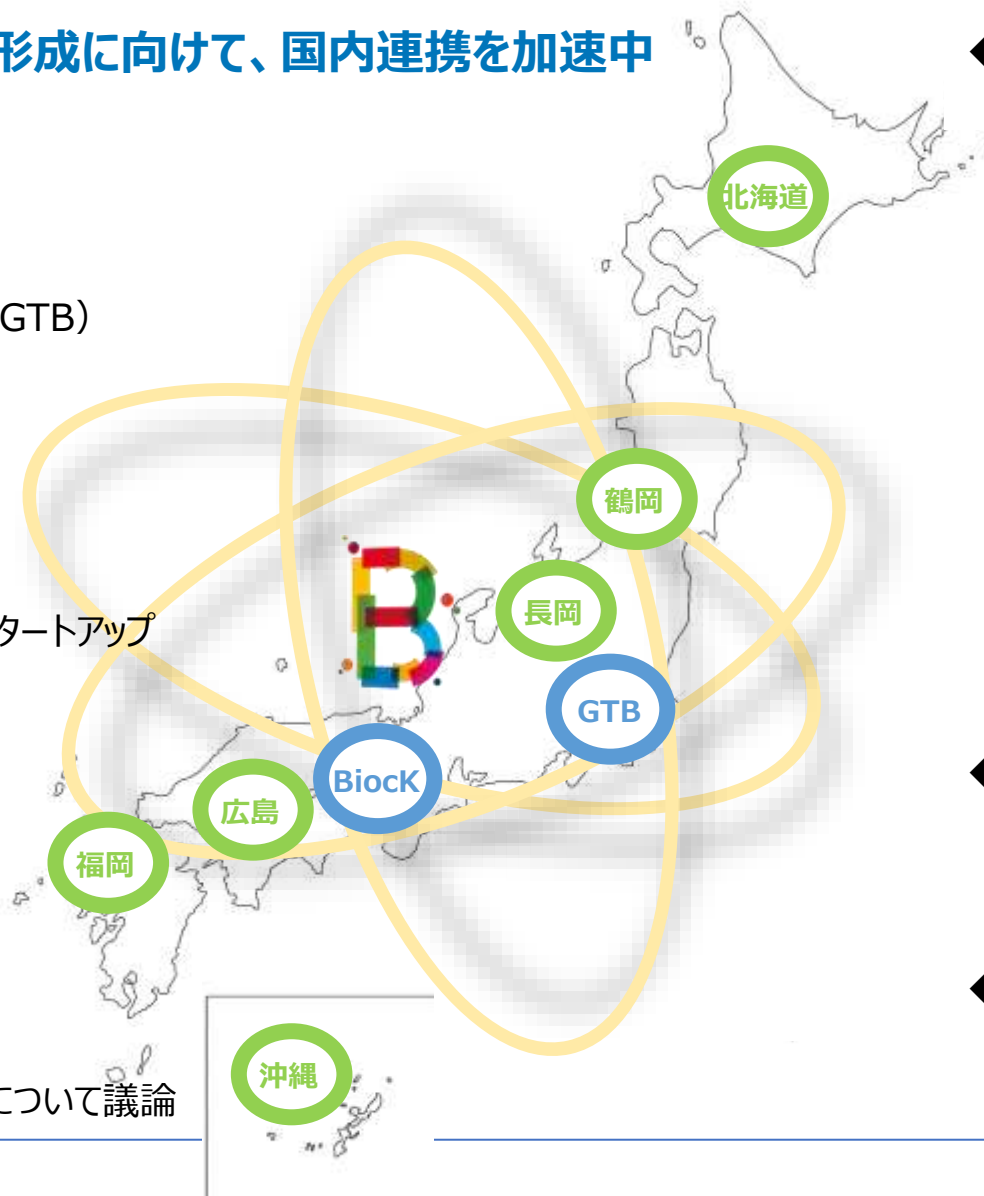
内容：バイオコミュニティ共通課題（運営費調達、スタートアップ支援等）についての議論

◆京阪神連携会議

- 2023年4月27日（木） 大阪
- 2023年6月15日（木） 神戸
- 2023年7月26日（水） 京都
- 2023年9月13日（水） 大阪
- 2023年12月6日（水） 神戸
- 2023年2月21日（水） 京都

参加メンバー：大阪府、京都市、神戸市、BiocK

内容：国際イベント企画、スタートアップ支援活動等について議論



◆LINK-J NEWS LETTER 2023年11月)



◆BiocK 連携機関

国内63団体
(2024年7月1日現在)

◆セミナー等への共催・協力・後援 年間 約100件

アクションプラン (2) ネットワーク形成促進



国内連携

ビジネスマッチング、セミナー・シンポジウム開催によりネットワークを拡大

◆ビジネスマッチング

関西バイオビジネスマッチング
オンライン
2024年1月～2月

関西バイオビジネスマッチング 2023

参加者募集!!

バイオ技術分野における
シーズとニーズのマッチングイベントとして、
「関西バイオビジネスマッチング」を完全オンラインで開催します。
新事業創出の場、新たなイノベーション展開の場として関心を持ってください。

開催期間 2023年10月2日(月)～2023年11月17日(金)
実施方法 オンライン開催：2024年1月～2月の2か月間
ピッチ：2024年1月10日(水) 14:00～18:00

募集対象 バイオ技術関連の企業、ベンチャー、アカデミア等
バイオ技術分野に特化した企業・機関の登録が必須です。

対象分野 バイオ技術分野全般
医療・創薬、診断・検査、研究開発、再生医療、ヘルスケア、
食品・機能性食品、化粧品、素材、化学、分析、農・林・水産・畜産、
環境、エネルギー、デジタル等

参加費 企業：2万円(税込) ※登録料(バイオバンク・ジャパン会費、登録料)は別途
アカデミア(大学、公的研究機関)：無料

申込方法 近畿バイオインダストリー懇話会様のホームページから
お申し込みください
URL: <https://biokk.com/information/2023>

場内と時間的制約を受けません、
リアルタイムで面談可能
質疑と出逢えます、
アカデミアの新しいシーズにも期待
マッチングサポートがあります、
参加費は無料でピッチ登録できます

お問い合わせ: 近畿バイオインダストリー懇話会 事務局 佐藤 由美子
TEL 044-4048 大阪府大阪市東淀川区T-2004-4048 近畿バイオインダストリー懇話会
TEL 06-6963-2107 FAX 06-6963-2127 URL: <https://biokk.com/>
E-mail: biomatch@2023biokk.com

出展者数 : 121人
参加者数 : 225人
商談数 : 320件
ピッチ発表者数 : 49人
マッチングサポート件数 : 33件

◆セミナー・シンポジウム

バイオ戦略トークセミナー
オープンイノベーションによる成功の秘訣
2023年8月3日

バイオ戦略トークセミナー
「オープンイノベーションによる成功の秘訣」

日時 2023年8月3日(木)
14:00～16:15 ☆終了後交流会

会場 ハイブリッド開催
会場：ライフサイエンスハブウエスト 4F A・B会議室 【先着70名】
大阪市中央区南船場4-1-3 御堂筋三井ビルディング4階
配信：2023(ウェビナー) 後継

参加無料

バイオコミュニティ関西(Biock)では、オープンイノベーションを推進する分科会活動をおこなっています。
1企業、1研究機関では解決できない複雑な社会課題に立ち向かうためには、企業主眼から脱却し、外野との連携
により新しい発想を生み出すことが必要になります。今回のセミナーでは、長年オープンイノベーションに取り
組んで来られた講師の経験から、貴重なご教訓をお伝えいたします。成功の秘訣についてご議論いただきます。
広く皆様のご参加をお待ちしております。

開会挨拶 14:00～14:05
バイオコミュニティ関西(Biock) 副委員長 兼 経路コーディネーター 飯田 恒樹

ご講演① 14:05～14:25
「オープンイノベーションによる国際的企業成長の秘訣」
バイオコミュニティ関西(Biock) 副委員長 兼 経路コーディネーター 飯田 恒樹

ご講演② 14:25～14:45
「シン・一次産業：自然と共生し生命(いのち)の価値を創るイノベーションへの挑戦」
サンマルホールディングス株式会社 経営部長 兼 戦略推進 専任部長 関 友明 氏

ご講演③ 14:45～15:05
「シリコンバレーで見てきた最先端イノベーション ～欧米事例と日本の現在地～」
東北電力株式会社 事業推進部門 アドバイザー
大阪大学ファクトリー株式会社 取締役
インベストメント&株式会社 シニアアドバイザー 12期 代表 佐藤 昌昭 氏

ご講演④ 15:05～15:25
「たつた一人から始めるイノベーション～スタートアップからスタートアップへの仕組み作り～」
京都大学経営大学院 専任教授
オムロン株式会社 イノベーション推進本部 シニアアドバイザー 竹村 一 氏

15:25～15:30 休憩

パネルディスカッション 15:30～16:10
モデレーター：飯田恒樹
パネラー：飯田恒樹氏/山本和彦氏/竹村一氏/12期 事務局員 高橋 健一 氏

開会挨拶 16:10～16:15 バイオコミュニティ関西(Biock) 事務局員 高田 清文

交流会 16:15～17:00

バイオ戦略トークセミナー
関西圏バイオクラスターの歴史と発展
2023年12月1日

バイオ戦略トークセミナー
「関西圏バイオクラスターの歴史と発展」

日時 2023年12月1日(金)
14:00～16:30 ☆終了後交流会

会場 ハイブリッド開催
会場：ライフサイエンスハブウエスト 4F A・B会議室 【先着70名】
大阪市中央区南船場4-1-3 御堂筋三井ビルディング4階
配信：2023(ウェビナー) 後継

参加無料

関西では、古くから医薬品、医療機器、素材などのバイオ関連産業が盛んであります。近代バイオ産業の発展
期である1980年代には、バイオ分野やライフサイエンス分野におけるコミュニティの形成が始まり、2000年代か
らは、さらにその活動が活性化されてきました。今回のセミナーでは、関西において、バイオおよびライフサイ
エンス産業の活性化に努めてこられた講師の経験から、貴重なご教訓と今後の展望をお伝えいたします。関西
圏バイオクラスターの歴史と発展についてご議論いただきます。

開会挨拶 14:00～14:05
バイオコミュニティ関西(Biock) 副委員長 兼 経路コーディネーター 飯田 恒樹

特別公演 14:05～14:20
「我が国バイオ産業の概観」
経済産業省 産産サービスグループ生活化学政策課長 下田 裕司 氏

講演① 14:20～14:40
「「関西バイオクラスタープロジェクト」による産業クラスターの形成」
経済産業省 近畿経済産業局 地域経済課
バイオ・産業技術振興課課長 渡辺 小臣 氏

講演② 14:40～15:00
「大阪府工業振興の経緯と産学官連携の歩み
～大阪・関西における健康医療産業圏10年と連携～」
大阪府工業振興 理事 志茂 裕 氏

講演③ 15:00～15:20
「バイオクラスタのこれまでにないこれから」
京都市 経済産業局 教授 下田 裕司 氏

講演④ 15:20～15:40
「バイオコミュニティ関西 アップデート」
バイオコミュニティ関西(Biock) 事務局員 高田 清文

15:40～15:45 休憩

パネルディスカッション 15:45～16:25
モデレーター：飯田恒樹 パネラー：小田和彦氏/山本和彦氏/下田裕司氏/ 高田清文

開会挨拶 16:25～16:30 12期 事務局員 高橋 健一 氏

交流会 16:30～17:00

アクションプラン

(2) ネットワーク形成促進



海外連携

各国との交流を通して、新規連携事業を計画中

◆海外調査-2

2023年10月29日～11月9日
オランダ、イギリス
デジタルバイオヘルス分科会（国循）
JST共創の場プログラム

◆フランクフルト・ラインマインセミナー

共催 2023年11月14日

◆日蘭シンポジウム－再生医療－

共催 パート1 2023年4月14日
パート2 2023年5月19日

◆日英ヘルスケアシンポジウム － Healthy Ageing －

共催 2024年2月20日

◆海外調査-3

2024年1月13日～21日
スペイン、フランス
デジタルバイオヘルス分科会（国循）
JST共創の場プログラム

◆海外調査-5

2024年秋、欧州（計画中）
デジタルバイオヘルス分科会（国循）
フォトニクス生命工学分科会（阪大）
JST共創の場プログラム

◆海外調査-1

2023年5月28日～6月3日
オセアニア
デジタルバイオヘルス分科会（国循）
JST共創の場プログラム

◆海外調査-4

2024年6月2日～9日
米国（サンディエゴ）
デジタルバイオヘルス分科会（国循）
フォトニクス生命工学分科会（阪大）
JST共創の場プログラム

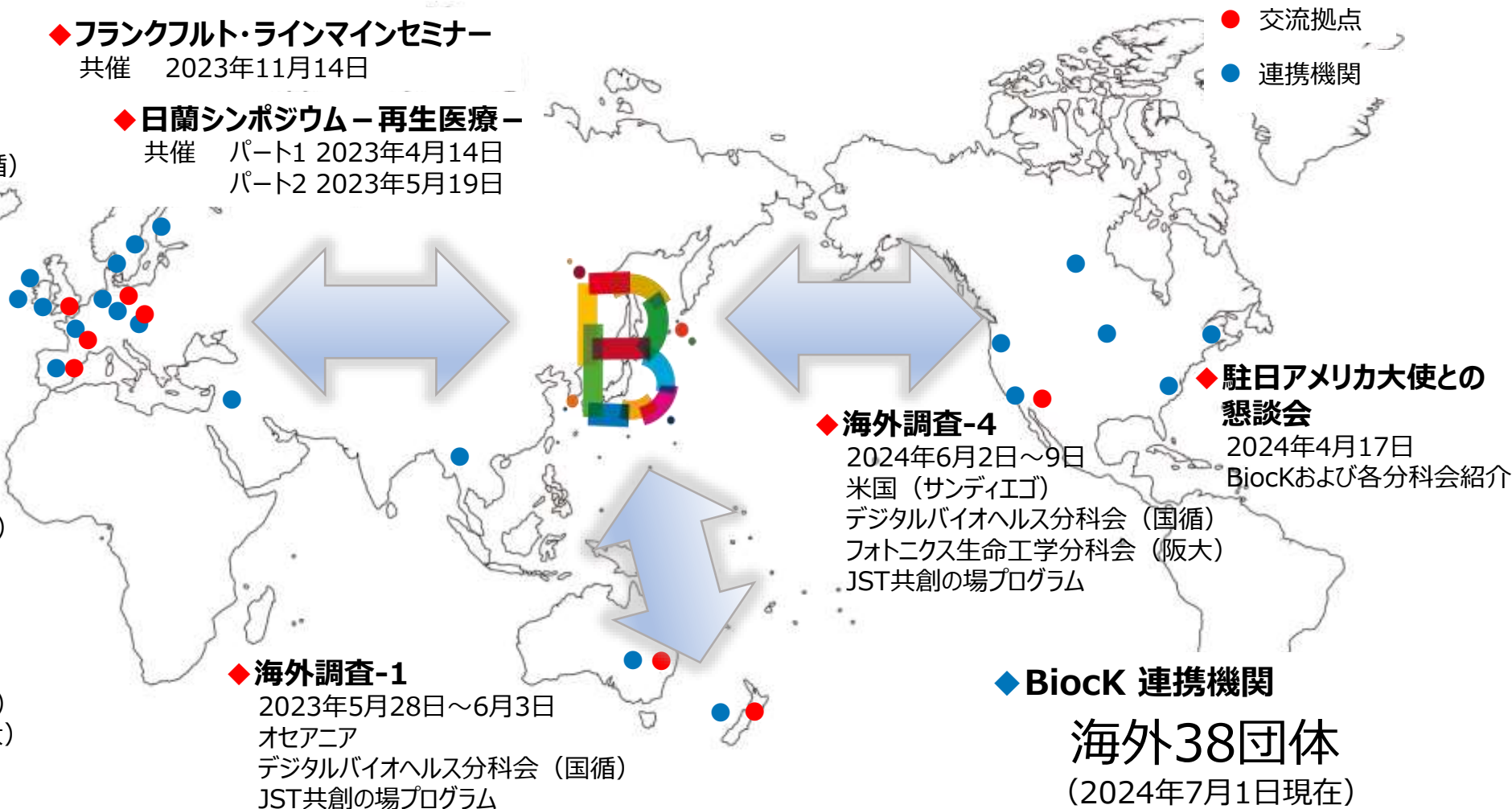
◆駐日アメリカ大使との 懇談会

2024年4月17日
BiocKおよび各分科会紹介

◆BiocK 連携機関

海外38団体

（2024年7月1日現在）



アクションプラン (3) 国内外への情報発信



関西バイオ情報の発信

- ✓ 関西の活動・ポテンシャルの情報発信
- ✓ 市民を巻き込んだ情報発信
- ✓ 経済安全保障に関する情報発信

関西ブランドの構築

- ✓ 大阪・京都・神戸の認知度は高いが、関西の認知度は低い
- ✓ バイオ情報を関西全体として発信することにより、関西ブランドの価値向上、認知度向上につなげる

大阪・関西万博2025

- ✓ 世界にアピールする大きなチャンスであり、BiocKとして実証実験に参画する
- ✓ これを契機として、社会実装を実現していく



ロゴ、WEBサイト、紹介資料、動画、セミナー、シンポジウム、個別面談、他

BiocK WEBサイトで情報発信中！

BiocK



<https://bioc.jp/>

- イベント情報
- 分科会活動
- 連携機関



アクションプラン (3) 国内外への情報発信



BiocK活動紹介

講演、取材、雑誌投稿等による情報発信

U-FINO×BiocKシンポジウム

2023年12月20日（水）

登壇 坂田副委員長兼統括コーディネーター
「バイオコミュニティ関西（BiocK）の
現在位置 ～「集積」から「連携」へ～」



BioJapan 2023

バイオコミュニティ認定証授与式

2023年10月12日（木）

登壇 高田事務局長
「バイオコミュニティ関西の取り組み」



駐日アメリカ大使

ラーム・エマニュエル 氏と懇談会

2024年4月17日（水）

BiocKおよび各分科会を紹介



BiocKホームページを活用した情報発信

アドバイザー紹介ページを開設

2024年3月

関連団体のイベントの情報を発信

HP掲載、メルマガ配信：年間約120件

BiocKおよび各団体からのお知らせ

HP掲載、メルマガ配信：年間約50件

アクションプラン (3) 国内外への情報発信

Bioeconomy Hub Japan 2024 開催

日時：2024年4月19日（金）
 場所：グランフロント大阪
 主催：Bioeconomy Hub Japan 組織委員会
 テーマ：プラネタリーヘルス
 ～バイオによるイノベーションがプラネタリーヘルスをどう実現するか～

国際シンポジウム
Bioeconomy Hub Japan 2024
 プラネタリーヘルス
 ～バイオによるイノベーションがプラネタリーヘルスをどう実現するか～
 【日時】2024年4月19日（金）【場所】グランフロント大阪
 13:00-18:00
 【主催】Bioeconomy Hub Japan 組織委員会
 【後援】公益社団法人2025年日本国際博覧会協会
 【参加費】1万円 先着50名 【申し込み】2024年4月15日
 【申込み】<https://bioeconomyhubjapan2024.peatix.com/>

概要：本シンポジウムは、バイオによるイノベーションがプラネタリーヘルスをどう実現するかについて、国内外の幅広い分野の専門家および400名規模の参加者とともに議論します。

講演者

特別講演
 日本経済産業省 大臣官房長官 萩生田光一
 環境省 環境政策部長 佐藤 優
 農林水産省 大臣官房長官 萩生田光一
 国土交通省 大臣官房長官 萩生田光一

基調講演
 日本経済産業省 大臣官房長官 萩生田光一
 環境省 環境政策部長 佐藤 優
 農林水産省 大臣官房長官 萩生田光一
 国土交通省 大臣官房長官 萩生田光一

パネルディスカッション
 日本経済産業省 大臣官房長官 萩生田光一
 環境省 環境政策部長 佐藤 優
 農林水産省 大臣官房長官 萩生田光一
 国土交通省 大臣官房長官 萩生田光一

Bioeconomy Hub Japan 2025 企画

日時：2025年4月17日（木）-18日（金）
 場所：ハービスホール（大阪梅田）
 主催：Bioeconomy Hub Japan 組織委員会
 テーマ：プラネタリーヘルス
 ～バイオによるイノベーションがプラネタリーヘルスをどう実現するか～

我々バイオコミュニティが目指しているバイオエコノミー社会の実現が、地球規模の社会課題として世界で議論されている「プラネタリーヘルス」にどう貢献するかについて、国内外の幅広い分野の専門家および400名規模の参加者とともに議論します。

Bioeconomy
 Hub
 Japan 2025